

● 監視性

家屋が対面的に向合うことによって自然な相互の監視性（見守りあい）が確保されている（写真4-4）。

袋状のミニ街区に入る入り口の両脇には街路灯が配置され不審者を照しだす様に仕組まれている。

また、このミニ街区の正面には必ず家屋が対峙するように建てられ、不審者へ威嚇的な効果をもたらしている。

写真4-4 袋状の街区の中で相互に見守りあう家屋



さらに、街路と宅地を分ける塀は木材で作成されているが、1枚ずつの板は斜めに取り付けられており、そのことによって正面からの視線に対しては個人のプライバシーが確保できるが、斜めからは通行人を見守ることが可能なように工夫されている（写真4-5）。

また、この街区の家の全ての窓に不審者の侵入を知らせる警報装置が取り付けられており、安全機器による監視体制網の十分なことも強調される（写真4-6）。